

第4回黒部市上下水道料金検討委員会の会議概要

開催日時 令和2年8月25日（火曜日）午後13時30分から午後15時40分まで

開催会場 黒部浄化センター会議室

出席者 委員11名（敬称略）

古田 俊吉、大上戸 久雄、澤田 正、宮井 俊親、木島 由美子、中西 さゆり、
細野 義隆、米陀 峰信、松平 毅、橋詰 真知子、森家 和哉
（欠席者 米屋 祐治、新村 恵子）

事務局 島津都市建設部長、畠山都市建設部理事、藤森上下水道工務課長、島崎上下水道経営課長、
高本主幹、若松係長、林主査、伊東主事、前田主事

コンサル 日本水工設計（株） 北陸事務所 袖野所長

1 開会（委員長挨拶）

委員長 : ご出席ありがとうございます。水道及び下水道はライフラインであり、非常に重要なものです。行政にとってはサービスであるし、私たちにとっては命の綱ということが言えますので、日常からでも持続性を見据えた上で施設の整備をし、メンテナンスをやっつけていかなければいけません。そういう意味で、コロナ禍のもとの、基本料金の減免、あるいは使用料の減免ですね。私たちにとってはサステナビリティを持たせた施設という意味で、やはり末永く施設やサービスが持続するように、守っていかなければいけないと思います。5年ごとに行われる水道料金、あるいは下水道使用料の見直しというのは、非常に大事なことでございますので、忌憚のない意見をいただきたいと思います。ベストじゃなくても、ベターな案をここで方針にしていきたいと思っています。上下水道料金検討委員会も残り3回となりました。今回は下水道の基本的な意見をまとめて、第5回には上水道・下水道の料金の方針をまとめ、そして6回目では下水道の使用料の方針をまとめていきたいと思っています。コロナ禍の制約が色々な面ではありますが、皆さんご健康に注意なさっていただきまして、コロナにかからないで第6回目までを完結して、市に方針書を提案したいと思います。委員会よりはもちろん命を守ることは大事なことです、よろしく願います。座って議事を進行させていただきます。

2 議事

事務局から第3回委員会に係るご質問に対する回答及び会議概要（資料1と資料2）の説明

委員長 : ありがとうございます。いま事務局から説明がありました、第3回委員会に係るご質問に対する回答及び会議概要について、委員の皆さんからご質問・ご意見などありましたら、発言をお願いいたします。どなたからでも結構です。

特段ないようですので、次に移ります。議事（2）水道料金のシミュレーションの追加ケースに係る検討について、事務局から説明をお願いします。

事務局から水道料金のシミュレーションの追加ケース（資料3）の説明

委員長：ありがとうございます。今ほど説明がありました、水道料金のシミュレーションの追加ケースに係る検討について、委員からご質問、ご意見をお願いいたします。なお、次回の第5回委員会では、水道料金の提言書（案）について審議する予定となっておりますので、今回この場において、どのシミュレーション案が望ましいか、委員の皆様で確認し、合意形成を図りたいと思っております。よろしくお願いいたします。

どなたからでも結構ですので、忌憚のないご意見を出していただければと思います。よろしくお願いいたします。

委員：私は元々Cを選んでいました。水道事業は独立採算制の原則で、不足する分を市から補填している状況で、適切とは言えませんし、施設を維持していくためにも、値上げは必要不可欠だと思っています。また、同じ市内で料金に差があることは好ましい状態ではなく、統一が最終目標として、ロードマップでも位置付けてあり、そこを目指す過程である今回は、急激な変化を避けて、CまたはBが良いのではないかと私は考えます。案をC-1、C-2と追加していただいているのですが、なぜCかBを選ぶという理由は、グラフの右から3列目の、料金上げ額を比較したところ、上水+4簡水と宇奈月とで、C-1は129円、C-2は63円差があり、Cは同格、Bもほぼ同格と言えて差がないので、そのほうが上がった時にも、説明や皆さんの理解が得やすいのかなと思ったので、私はCまたはBが良いと思います。以上です。

委員長：ありがとうございます。それぞれの地域で、皆さんが住んでいらっしゃる地域、それから自然条件等々が異なりますので、それぞれが属していらっしゃる協会、地元の関係も色々複雑でございます。しかし、黒部市全体のサステイナブルな水道と下水道の問題でございますので、基本体系として可能であって、あと実施時期をどうするかというのは、また別の考え方です。いずれにしても、長期を見据えた黒部市全体の上下水道料金の問題とお考えいただければと思います。その中で人口も変わってきますし、産業構造も変わって行きますが、私から言うと、将来に託すということになります。

事務局：今ほど事務局から説明をいたしました、ケースB、ケースC、それぞれ皆様からご意見いただいて、ちょうど半々の意見があったということもございました。それで、どちらかにというのはなかなか難しいということもございましたので、あえて中間の部分で2通り追加でご用意したという形になります。これについてのご意見でもよろしいですし、やはりこれにしなければいけない、という話でもよろしいです。この場で色々なご意見をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

委員長：まだ意見をお出しになっておられない方、よろしくお願いいたします。

委員：水道料金の家庭の比重に占める割合は、そんなに大きくない。これはよいのですが、ただやはり3割とか4割になってくると、影響として大きいかなという気がします。今回の見直しの特徴としているのは、見直しにより地域間の格差が非常に縮まったということだろうと思います。ここで単に5年間というスパンで見るとはなくて、例えば、何年後の解消に向けて進めていくかという具体的な数字、ある程度の目標の中で、こうした進め方をしていきたいというものが見えないと、ここで単に2割とか3割という議論ということは、やはり難しいのかなと思います。将来展望というのが、少し欲しいなと思います。

委員長：ありがとうございました。その点、事務局としてはロードマップがありますか。基本的に、その面ではどう考えていますか。

事務局：ロードマップでは、今回の改定で料金格差を改善し、最終的に料金の統一を謳っています。いま言われた、何年後に、何回目の改定の時に統一されていくか、ということについては、今現在シミュレーションされていないのが正直なところでございます。今回、料金の格差を埋める1つのステップアップとなる改定ということで、示させていただいたということでございます。最終的にはロードマップの最終形ということで、料金統一に向かっていくと考えています。

委員：いま言われたとおりだと私も思っております。意見書にも書きましたが、今回検討して、ずっと5年間統一する、というものの考え方というよりも、ある程度の格差があっても、少しずつ縮めていくとか、繰入金を少なくしていくとか、そういう徐々に段階を踏んで、5年間ではなくして、毎年少しずつ改善していくとか、そういう案を作ればいいかなと、私は思っているところですが、難しいのでしょうか。

委員長：その点、事務局はいかがですか。これまでは5年ごとに見直すということになっていて、それをもとに見直す。最初の時は、過去を振り返ってやってきているわけですけど、料金体系及び料金単価がバラバラでした。今日の委員会の説明にありましたように、旧黒部市と旧宇奈月町が合併する段階で、その合併の時には制度を変えないで、持ち越した結果、口径も違えば種類も違うということで、バラバラと言ったほうがいいと思います。それをいかに統一に向けて、入り組んだものからほどいていく作業から始めていったわけです。できるだけ簡略化、簡素化して、皆さんが分かるような形に変えていったのです。それは上手くいったということが言えます。その次のステップは、簡素化された制度の中で、次は料金に食い違いがあったのをどうしていくか。ただし、その場合にも、上水道という旧黒部市のシステムがあり、旧宇奈月町には簡易水道、あるいは農村の集落ということで成り立っていた。そういう地域的な違いもございまして、地理的な違いもありますので、そうになっていたわけです。つまり、上水道と簡水という区別で水道が提供されていたわけですが、かなり料金も違いますし、制度的には企業会計に向かっています。地方公営

企業が企業会計に移行して、独立採算をしていくのが基本であるというシステム変更がなされている中で、一般会計からの繰入をできるだけ少なくするような方向で動きなさい、というのが非常に強くなってきたわけです。料金体系に格差があるのは望ましくないし、かつ、制度も色々あるというのも、あまり良いことではない。だから、制度設定が1つである、つまり、上水道に一致する簡水を作る。ゆくゆくはタイプがみんな一緒になれば、農村も一緒になれば、上水道だけということになります。

しかし、例えば旧宇奈月町の黒部市に近い所は、このパイプを旧黒部市の施設の所にくっ付ける。私も高岡で今やっていますけども、パイプをいかに繋ぐかということです。現行の上水道の施設に、簡易水道のパイプを繋いでいって、少しずつ上水道のシステムを広げていく、そういうところに向かっているのですが、すぐには出来ないということがございます。ですから、今のところは何年すれば、完全に料金体系が統一されます。それから、システムも非常に簡素化されていって、行きつく先では、上水道に一本化されるというのが一番いいのですが、そこまでは何年かけていけるかというのは、現行では難しいということがございます。パイプ布設、それから繋げるという作業、地理的な条件がそれぞれの簡易水道でも違いますし、当分は難しいという状況なのです。このベクトルの表で今まで進んできているわけです。そういう中で、私も考えていますし、事務局も考えていますので、ある意味では機械的というか、5年ごとに進んでいって、統一できたらいいな、という考えですが、実際は皆さんお考えのように難しい。今、お話されたお2人のご意見もそういう意味であろうというふうに思います。連続的に小さい階段は上りやすいのですが、毎年改定というのはまだ難しいと思います。情勢の変化により皆さんの考え方というのも少しずつ変わってくると思います。したがって、今までのところ5年ごとに料金を見直しているというふうに考えていただければと思います。

まとめますと、毎年改定というのは非常にやりやすそうに見えるのですが、実際は諸事情が変化しますので、非常に難しいというのが実情でございます。ですから、これまでは5年後という期間を区切って、見直しをして、将来設計をして、将来計画を立てて、そのもとで料金を改定していく、そういう流れで今きているわけです。今回もできましたら、やはり5年間を見据えたような形で、お考えいただけたらなというふうに、委員長としては思っております。ただ、当分はこれでいくよ、というステップは大きいかもしれませんが、とりあえず5年間は持たせますよということなのです。そういう意味では、住民の方々は、5年間は大きく変動しないだろうという、ある意味で安定しているんだよ、という料金でいくということです。

しかし、毎年変更ありますよ、ということになると、諸事情によっては、事業経営が成り立たない、という住民の方の不安もあり得るかと思えます。それは、それぞれ委員の方がお考えになって、決めていただければ結構だろうと思います。そういう意味で、色々忌憚のないご意見を出していただきたいというふうに思っております。よろしく願います。事務局としてはBかCかというご意見をいただいて、BとCの中間で、歩み寄りを考えてお作りになったわけだと思います。ただその中で、できましたら5年間を見据えたような形で、見据えるというのは、国としての制度設計があります。国としての制度設計が

あって、企業会計とし、一般会計の繰入はできるだけしない、というふうに言っているわけですが、そして、また簡易水道につきましても、企業会計を徹底しなさいというふうに、1つの制度設計のもとで進んでいきなさい、という傾向になってきているのです。だから水道は、例えば私は高岡市の水道に関係しているのですが、政府は、前回か前々回に言いましたけど、研究会を作って、広域化に向けて動き出そうとしているわけですが、国が今そういう方針を取っていますので、1つの市だけで水道を運営していく、あるいは下水道を運営していくというのは非常に難しいのです。したがって、市を超えた、公益サービス提供をやっていくという考えを取らざるを得なくなっているのが現状でございます。そのような流れもございまして、そういうことを見据えて、委員の皆様にご案内できたら、というふうに思っております。ですから、黒部市だけというよりは、旧三日市地区、場合によっては、極端に言えば、全体で1つの水道システムになる可能性も今後あり得ます。非常に難しいですけども、下水道事業も水道事業も将来に残していかないといけない、子孫に残していかないといけない、ということがございまして、維持されるのが一番基本だと思います。

現状とすれば、格差が非常に大きな問題なのですけども、格差がある程度残ったとしても、できるだけそこは歩み寄って、サステイナブルな水道システムを維持していく、という視点で見ていただければ、というふうに思います。私は富山市に住んでいますので、別の所から来ている人間なのですが、でも高岡のこともやっておりますので、料金改定の流れというのも見えております。

委員： 私は、民間の簡易水道連合会の会長をしております。それで、一般財務から補填されるのは、はっきり言って絶対反対で、早くゼロにしてほしい、というのが本音であります。しかし、一市民としましては、やはり一度に上げるのは無理かなと思います。簡易水道組合がだんだん減ってきているのは事実であります。というのは、簡易水道組合の役員になる人が極めて少なく、みんなお金さえ出せばどうにかなるだろうという考えでおられるのです。そうすると、料金が高くなっても良いじゃないのかという思いが私にはあります。組合であれば、みんなで安い水、美味しい水が飲めるよ、と言っているのですが、役員になりたくないの、金さえ出せば市の水道へ入れるのだろうというので、料金高くなっても早く、という人がおられます。ですので、いきなり料金を上げられても構いませんというのは、連合会の会長としての私の意見であります。一市民として考えた時には、やはり一度に上げるとかわいそうかなという思いでございまして、いま事務局がB案とC案の間を取って、C-1、C-2と作られたのですが、C-2の方が良いのではないかなと思います。表では絶対反対ということでやっているのですが、腹の中では実は一市民として、黒部市は県下で一番安い水を供給しているという思いでございまして、やはり事務局とすれば一度に上げるのはかわいそうかなと、私も思っておりますが、私個人の意見も入っております。申し訳ないですが、一民間の簡易水道連合会の会長としての立場もありまして、言わなければならないかなと思っております。

委員長 : ありがとうございます。そういうのを、ざっくばらんに出していただけるのが大事だろうと思います。私も大学の教室で話すのとうちの中で話すのとでは違うわけです。それから、どこかの委員長になっていった時はまた違うのです。違うというのは、それぞれの立場の色々な考えの中で、どの立場でどの観点から見ていくかということによって変わってくるだけであって、でも皆さんは現行では今のところ黒部市民であることには間違いのないわけですから、その観点で一致しているわけですね。でも、それぞれの位置される業界その他で、違うというのは出てくるので、それはそれで出していただければ結構であります。だから、そういう知恵を出し合って、ベターな案を出していくのが好ましい。ベストは難しいと思います。できるだけ多くの人が寄り合える案を決められたらな、という意味でコンセンサスを取っております。いかがでしょうか。どうぞ、一人ずつ意見を出していただけたらと思います。

委員 : 実を言いますと、私個人としましては、水道料金は払っていないです。と言いますのは、井戸なわけですね。最初これを見せていただいた時は、何かイメージが湧かないというか、自分で払っていないものですから、湧かなかったのですが、先程の方と一緒に、BかCかどっちかと言われると、私はBにしたのですね。徐々に近づけていくということは、毎年近づけていくというのも1つの案かもしれませんが、やはり事務局、その他、払う側としても混乱すると思いますので、ある程度の期間を区切って、今の場合は5年という期間がありますので、それに従ってやっていけばなというふうに思っていますし、今のBとCのケースが半々で、その中でC-1、C-2を出されたわけですが、私は数字的に見たら、個人としてはどっちでもいいと思っているのです。ただ、やはり出されたC-1、C-2の中からやっていただければなというふうに思っております。

委員長 : ありがとうございます。

委員 : 今の話を色々と聞いていたら、BでもCでもいいので、最初はBにして私は出したわけですけども。

委員 : 私はB案を推しました。というのも、上げ幅、率もさることながら、やはり最終的には金額だと思うのですよね。上がる、ということは、B案もC案も同じ、金額は478円・479円と、343円、宇奈月も他の所も上げ額は同じということで、最終的に考えたのは、結局は一般繰入の金額を早くゼロにするにはB案だろうと。C案かB案かと言われたら。ということで、私はB案を推しました。今でもおそらく変わっていません。事務局がC-1とC-2をせっかく作られたのですけども、これを作られるとまた、委員の皆さんはかえって混乱すると思うのですね。だから、作らなくてもよかったのではないかと、個人的には思っております。

委員 : 先程から色々な意見が出ているのですけども、私も意見書の取りまとめの時に、当初

は、前回の委員会の時には料金改定が大変だということと言われたものだから、私は段階としては、できるだけ統一した考え方でいいかと思っています。先程、段階的に5年間かけてやると言われて、それも一つかなというふうに思ったのですが、県下のこの状況を見ると、やはり段階的ではなくて、一気に5年間の先を見据えた、そういう形を設定したほうがいいのではないかと思います。県下の状況を見ても、理解をしていただければと思います。かなり抵抗はあると思うのですが、そこまで一気にやったほうが、ベターじゃないかなと思います。

委員長 : ありがとうございます。

委員 : 私はケースCを選びたいのですが、事前にこのケースC-1とC-2をいただいて、非常に迷ったというか、やはり少しでも早く繰入がなくなるのがいいのかなと思います。しかし、格差も減らしていきたいという部分もありまして、この前はCを選んでいたのですけれども、Bを選んだ場合に、例えば上水の繰入率がゼロになってしまった時に、5年後、じゃあそのゼロになっている上水も値上げをするのか、ということもあるんじゃないかなと気になりました。ゼロになっているのに、上水の人たちはどうして値上げをしないかやいけないのって、お互いみんな一緒にやっているの、みんなで少しずつ助け合って埋めていかなきゃいけない、という部分もあると思います。今C-1というのをを出していただいたので、C-1というのが料金の格差を少しずつ埋めていくということと、あとできるだけ繰入を抑えてというので、C-1というのもいいと思って見せていただけていました。料金の上げ額がちょっと違うというところに関しては、お互いに料金を統一していく上では、途中経過としては仕方ないことなので、上げ幅は違うけれども、水道料金としては宇奈月の方が安い価格であるということ、市民の方にも説明していただくおとでご理解をいただけるのではないかなと考えています。ということで、私はC-1を書いてあります。

委員長 : ありがとうございます。

委員 : 私は前回Cということで、意見を出させていただいたのですが、BとCの間ということで、C-1、C-2を作っていただいたのですが、この辺は迷うところも出てきます。水道料金を近づけるというところでは、C-1が今は良いのではないかなということも思っています。一般家庭水道料金、表の左から4番目の現在の差額を見ると、324円なのですよね。ケースC-1にした時は195円の差額です。ちょっとでも近づいていくのなら、今の段階で差額を195円ぐらいまでに、宇奈月と縮めればいいのではないかなと思います。今はC-1が良いのではないかと考えています。

委員 : 私も現行ぐらいが一番いいかなと最初は思っていたのですが、一般会計繰入比率の4%は維持するという考えがあったかと思っています。特に宇奈月の場合は、(旧宇奈月町の)合併

当時の約束があった関係で、宇奈月の簡易水道はゼロ円だった。ところが、もう十何年も合併して、であれば、いつまでも宇奈月とか言っている時期ではないだろう、ということで、水道料金も徐々に上げていかなければならないという考え方から、一般会計繰入比率4%を維持するというので、C-2が今一番良いのではないかと思います。一般会計の繰入については、現在は1億2,200万もできているものが、C-2になると4,600万まで下がる、非常に画期的な下がり具合で、他の公共事業云々はどうかと言いますと、これは思った以上に一般会計繰入が多いのではないかと、という都市もあるだろうと思います。そういうことから見て、この水道料金なり、下水道料金というのは、本当の生活に密着した繰入金であり、補助であり、それが一番便利ではないかということから見て、必要最小限、何と言っても4%、いわゆるこれも市機能を見ますと、上水道では4%、それから宇奈月簡易水道では23.2%であって、合わせて9.4%の繰入金という考え方から見て、5年間かけて徐々に下がっていくと。また5年間で繰入金をゼロに近づけていくとか、それが私の考え方でございます。

委員長：ありがとうございます。一通り意見をいただきました。他に意見はありますか。

委員：先程言ったのですが、なかなか段階的に上げるのは難しいのではないかと意見を聞きまして、やはりそうかなと思ったところであります。私が個人的に思ったのは、やはり繰入金4%を維持するか、しないかは別として、同じ黒部市で事業種別は違うかもしれませんが、同じ黒部の水を使っていることに関しては、近づいていくことは原則かなと思っています。いま本当に皆さんの意見を聞いておりますと、C-1、C-2というのは中間の数字を並べられただけかなと思っておりますが、その中において、何十年前、宇奈月は簡易水道がゼロ円だったということ踏まえれば、あまり宇奈月を上げることはできないのかなと、いま聞いて思ったところです。私の思いからいきますと、上げるのであれば5年間ということになってくると、C-1、C-2よりもB案の方が適切なのかなと。そういうものの考え方でいけばいいのかなというのは、私最初はCだったけど、Bが良いのかなと、いま皆さんの意見を聞いてそう思いました。

委員長：ありがとうございました。C-1の方が多そうでしたね。Bに近いCですか。事務局はいかがですか。だいたいどういう感触を持っていますか。

事務局：C-1、C-2を作ったことで、皆さん少し迷わせたということもありまして、少し反省しているところでございます。ただ、半分ずつの意見だったというのが私もあったものですから、どっちかに寄れないかなということもございまして、今のご意見の中でいけば、ケースB、それとケースBに近いケースC-1、このどちらかに寄っているというようなイメージであります。ですから、この中で選んでいけば、というようなイメージかな、というふうには受け止めたところでございます。

委員長 : 今回ここで決めないといけないでしょ。次回で良いのですか。

事務局 : 本日、方針として決めていただきたいのが本音でございます。

委員長 : それならば少し、今から議論しても同じだろうと思いますので、冷静に皆さん考えていただいて、また一通り聞きます。BかC-1か。だいたいBに近いC-1の方が。いやいやスッキリするのはBですと、先程そうおっしゃったとおりで、私自身も中間を取ってこれもいいなとなりました。要は、立ち位置がはっきりしなくなってきた、こっちではこれを取って、こっちではこれを取って、だけど全体としてはちゃんとした考え方になっているか、というのが分からなくなってしまったというのが自分自身にもあります。2～3分考えていただいて、もう一回お聞きしましょう。よろしいですか、委員の皆さん。今回決めないといけないのですが、でもここではコンセンサスを、要するに将来を見据えたということやっていて、多数決で決めたということではなくて、皆さんがある程度、全会一致でなくても、これが良いというふうに判断したということにしたほうが、好ましいのではないか。方針を市に出すにしても、良いのではないかと私は思います。

事務局 : そうしましたら、時間も経っておりますので、一度、換気をしたいと思います。それも含めて一度休憩をさせていただきたいと思います。5分ほど休憩を取らせていただきます。こちらの部屋の時計で2時50分まで休憩ということで、5分間休憩を取らせていただきます。よろしくお願いいたします。

～5分間換気のため休憩～

事務局 : それでは時間になりましたので、引き続き、会議を再開したいと思います。委員長、よろしくお願いいたします。

委員長 : それでは一人ずつお聞きしていきます。先程コメントをいただいた結果、BかCが多かったと思います。ですので、今回これで時間も押し迫ってきていますので、決めさせていただきたいと思います。お一人ずつに、ケースBかケースC-1かでお聞きしたいと思います。その上で、多数決ではないのですが、数の多いほう、それほど極端にAかBかという聞き方をしているわけではないので、どちらかと言うとこれが好ましい、という言い方として、コンセンサスを図っていききたいというふうに思っています。ですので、ケースBかC-1かでお答えいただきまして、多いほうを採用したいと思います、いかがでしょうか。

委員 : 先程お話ししましたが、ここでC-1、C-2が出てきたものですから、非常に迷ったのですが、繰入金額を少なくするのであれば、私はBが良いのではないかとというふうに思います。

委員： Bです。同額だということも大きいかなと思います。

委員： 当初どおり（B）です。

委員： 私もBかC-1を選ぶなら、Bを選びます。理由は値上げの額がほぼ同額なので、払う側としても差がないほうが、不公平感が生じないのではないかというふうに考えるからです。

委員： 私はB案です。

委員： 私は格差を少しでも減らしたいなという思いもありますので、C-1を選びます。

委員： 私も先程と同じC-1です。

委員： 私もC-1であります。

委員： 私もC-1です。というのは、この値上がりは、上水道の上げ率だけで、簡易水道は上水道の補助率というのは、一般会計からの補助が全然ないと。あるのは、簡易水道だけ補助をもらっている。それとやはり一般家庭の値上げしない、28%より20%の方がいいのではないか、そういう関係でC-1です。

委員： 私は先程も言いましたが、Bです。段階的に上げればと思ったのは、やはり今コロナ、こういう時期で、値上げはなかなか難しいのかなと思って意見を申し上げたところです。事務局でもB、Cの中間案を2つ作られて大変だったと思いますが、私個人的に言うと、5年後を見据えて、B案が最適だと私は思います。

委員長： ありがとうございます。いま出席の10名の方に、事務局にどうするかと言ったら、委員長はどうするかと言われましたが、委員長は最後、行司役で、まとめ役です。結果が出ましたね。事務局よろしいですか。10人中の6名の方がBで、4名の方がC-1ということで、この委員会ではBを採用させていただく、ということにしたいと思えます。よろしいでしょうか。

では、そういうことに決めさせていただきます。ありがとうございました。

では次に、議事の（3）下水道使用料改定案について、事務局から説明をお願いします。

事務局から下水道使用料改定案（資料4-1、資料4-2）について説明

委員長： ありがとうございます。かなり時間が超過して申し訳ございませんでした。水道の料

金のことで決めないといけなかったものですから、下水道はだいたい事務局からいただいた案はこの3ケースですよね。あと28ページのロードマップに従ったケースでは、上位の6番目ぐらいにあたると。Aにしますと、緩やかなので下の方ですね。それから試算結果を見ていただいて、あと時間もあれですから、資料を読んでいただいて、この選択のケースが少ないから、だいたい見やすいですよ。用意されているのは3つのケースですから、BかCですね。Aは非常に緩やかですから、魚津市のこともだいたい一段落しているのですが、やはり財政というのは先に残しておく、ろくなことが起きないですよ。最初の時に申し上げたように、黒部市は非常にある意味では厳格に進めていらっしゃるの、長期的に見ると、料金が高いと言いつつ、それだけ安心して、安定的に安全に財政を維持されているので、大きな問題というのは起きないというふうに見ていいのではないかと思います。そういう意味では、市民の方々も、市の方も賢明な運営をされているのではないかと思います。今回の下水道の件についても、僕はずっと申し上げているのですが、サステナビリティを見ていって、できるだけ長期を見据えてやっていると、大きな問題は起きないのではないかなというふうに思っております。ということは、どういうまとめ方をすればよろしいでしょうか。この事務局から提案されたのは3つのケースですので、表とかを見ていただいて、黒部市としては色々な委員さんが思っている観点を含めて、AかBかCのご意見を出していただければと思います。ある時間を区切って。いつまでに出していただけたらよろしいですか。しばらく猶予を与えていただいて、委員の方々に。質問も市へ出していただけるようにして、委員のまとめたものを掲出されるようにしていただければと思いますが、いかがでしょうか。

事務局 : ありがとうございます。前回の水道料金の時と同じように、もう一度、下水道使用料の改定案に関するアンケートの用紙などをお配りさせていただいて、提出期限につきましては、9月4日(金)ぐらいを目途にお願いできないかというふうに考えております。意見用紙の内容につきましては、水道料金の時と同じで、まずケースを選んで、その理由や意見を書いていただくといったような、簡単なアンケート用紙となっております。

委員長 : 意見交換をする時間が取ればいいのですが、時間が超過しておりますので、先程のコメントで委員長のとまとめとさせていただきたいと思います。充分、自宅にてご検討いただきまして、市から配布されるものに、ご意見、色んな面で細かく書いて提出していただければと。その上で、事務局でまとめて会議に出していただき、検討の上で、使用料について示していただく、そういうスケジュールでよろしいですか。

では、委員の皆様、こういうスケジュールで、次回までにおうち仕事を、課題、宿題をやっていただければというふうに思います。

本日は長時間でありましたけども、これで5年分の仕事がこれでだいたい終わったと言っても過言ではありません。ご苦労様でございました。3回目は少し緩やかでよかったです。

では、次回まで宿題をよろしく願いいたします。本日はこれで委員会を終了しますが、

事務局から連絡をお願いいたします。

事務局 : 大変足早で、時間がなくて申し訳ございませんでした。次の機会までに、皆さんにお配りしたアンケート用紙を、またご提出いただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それで、次第3その他というのがございますので、それについて説明させていただきます。

事務局 : 長い間、慎重なご審議、ありがとうございました。事務連絡と言いますのは2点ということで、1点目は、何度か先程からも出ております、意見書、下水道料金改定案に関する意見書のご提出でございます。また、ケース案、どれがいいかということも含めて、その他またご自由にご意見など書いていただいて、提出方法はFAX、メール又は返信用封筒ですね。この間からお送りさせていただいている中で、もしお家にあるものでしたら、そちらをご利用いただきたく、もしなければ、事務局にお申し付けください。また、電子ファイルでの様式送付をご希望の場合は、お帰りの際に事務局までおっしゃってください。

2点目は、第5回の委員会の開催にかかる日程調整についてですが、改めて委員の皆様には日程に関するアンケート用紙を送付させていただきますので、届きましたらご返信いただきますよう、よろしくお願いいたします。第5回の開催は、遅くとも10月中を考えております。また、その他ご意見、ご提案、ご質問等は、電話等で結構です。随時事務局で受け付けておりますので、お気軽にご連絡いただきますようお願いいたします。「その他」の説明につきましては以上でございます。よろしくお願いいたします。

事務局 : 繰り返しになりますけども、第5回については10月中を予定しております。それについて、事務局からアンケート用紙を送付させていただきますので、日程等について、またお知らせいただければと思います。

ただいまの件について、ご質問等がございましたら、今お受けいたしますけども、よろしいでしょうか。また、お気づきの点がございましたら、個別に事務局へお知らせいただければと思います。それでは、長時間にわたりまして、ご審議いただきまして、ありがとうございました。第4回上下水道料金検討委員会を終了させていただきます。皆様には大変お忙しいところ、ご出席いただきまして、ありがとうございました。次回もよろしくお願いいたします。